

3

地球上の海面水位が 約100年で平均19cm上昇

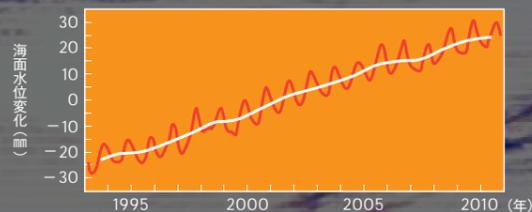
水温上昇による海水の膨張や氷河の融解などによって、1901~2010年の間に世界の平均海面水位は19cm上昇したと見積もられています。日本では1m海面が上昇すると、全国の砂浜の9割以上が失われてしまいます。

海面上昇で「世界で最初に沈む国」といわれる南太平洋のツバル



©Shuichi Endou(Tuvalu Overview) 全国地球温暖化防止活動推進センターWebサイトより (http://www.jccca.org/)

人工衛星搭載の高度計から求めた世界平均海面水位偏差(北緯66度 南緯66度)の推移



出典：気象庁

赤線は5日ごとの平均値、白線は年平均値を示す

4

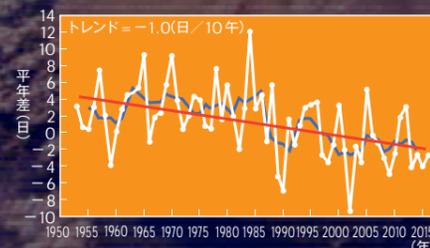
気候変動の影響で 日本の四季がなくなる?

春には桜、秋には紅葉を愛でるなど、日本人の暮らしには四季折々の自然が深く関わっています。しかし、気候変動は日本の四季にも影響を与えており、このままだと春と秋がなくなり、四季が二季になるかもしれません。



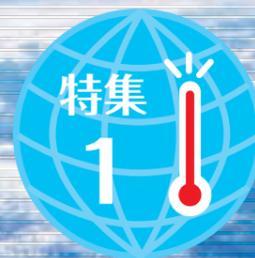
桜の開花時期は、気温の変化にともなって早まっています

サクラの開花日の経年変化(1953~2016年)



白線は年差、青線は5年移動平均、赤線は変化傾向を示す

出典：気象庁



負暑さにならない

知恵と工夫で うち勝つ

年々、夏の暑さは厳しくなっていますが、気候変動は私たちの生活にどのような影響をもたらすのでしょうか。

1

日本の平均気温は、 100年ごとに約1.2℃上昇

暑い年と冷夏の年を繰り返しながら、平均気温はゆるやかに上昇しています。1990年代からは高温の年が頻繁に。特に東京の年平均気温は、過去100年で約3℃上昇しており、ヒートアイランド現象の影響が顕著にあらわれています。

日本の平均気温の変化



出典：気象庁

2

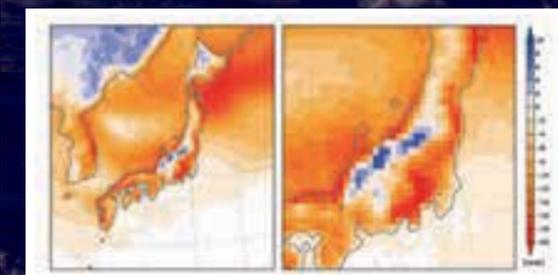
巨大台風や豪雪など、 異常気象が頻発

ゲリラ豪雨(局地的大雨)や巨大台風、異常高温や竜巻などの発生率が年々増加しています。降雪量は全体的には少なくなるといわれますが、気象庁は「10年に一度」クラスの豪雪が頻繁に起こる可能性を指摘しています。



大気中の水蒸気が増えているため、低温だとドカ雪になりやすい性を指摘しています。

豪雪時の降雪量の変化予測(日降雪量)



出典：気象研究所

青い領域で降雪が増加

写真：アフロ